

個性的な名前を与える傾向が増加している

－ 日本文化の個人主義化を示唆 －

研究の概要

本研究では、新生児の名前の経時的な変化を分析することによって、日本文化が個性をより重視し、個人主義化しているかどうかを検討した。

近年の日本では、個人としての独立や自立、他者と違って個性的であることなどが重視され、個人主義化が進んでいるとされている。実際、家族サイズの減少や離婚率の増加などから、日本文化の個人主義化が指摘されている。本研究では、新生児の名前を用いて、日本文化が個人主義化しているかどうか検討した。

ベネッセコーポレーションと明治安田生命保険相互会社が公開している新生児の名前ランキングを分析した。具体的には、2004年から2013年における、人気のある名前の読みと漢字が与えられる割合の推移を算出した。

その結果、人気のある漢字が与えられる割合は増加していたが、人気のある名前の読みが与えられる割合は減少していた。さらに、人気のある漢字の組み合わせの読みの種類数を分析したところ、その数は経時的に増加していた。

これらの結果から、人気のある漢字に対して一般的でない読みを与えることで、個性的な名前を与える傾向が増加していると考えられる。よって、日本文化は個性をより重視する個人主義文化に徐々に変容しつつあることが実証的に示された。

分析の概要とその結果

研究1では、ベネッセコーポレーションが毎年公開している新生児の名前ランキング（平均約40,000件の名前を毎年収集）を用いて、人気のある名前が与えられた新生児の割合を分析した。その結果、人気のある読みトップ10を与えられた新生児の割合は、経時的に減少していた（図1）。一方で、人気のある漢字トップ10を与えられた新生児の割合は、経時的に増加していた。

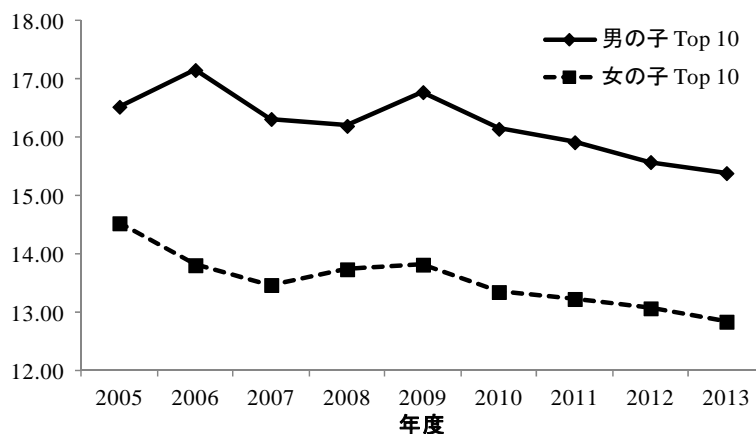


図1 人気のある名前の読みトップ10を与えられた新生児の割合の経時変化 (%)

研究2では、明治安田生命が公開している新生児の名前ランキング（平均約8,000件の名前を毎年収集）を研究1と同様に分析した。その結果、研究1と一貫して、人気のある読みトップ10を与えられた新生児の割合は、経時的に減少していた。

さらに、研究2では、人気のある漢字の組み合わせトップ10のうち、読みが複数あるもの（例えば、「大翔」には「ひろと」「はると」「つばさ」などの読みがある一方、「蓮」は「れん」とのみ読まれていた）の割合の推移も検討した。その結果、同じ漢字の組み合わせに対して複数の読みが与えられる傾向は経時的に増加していた。

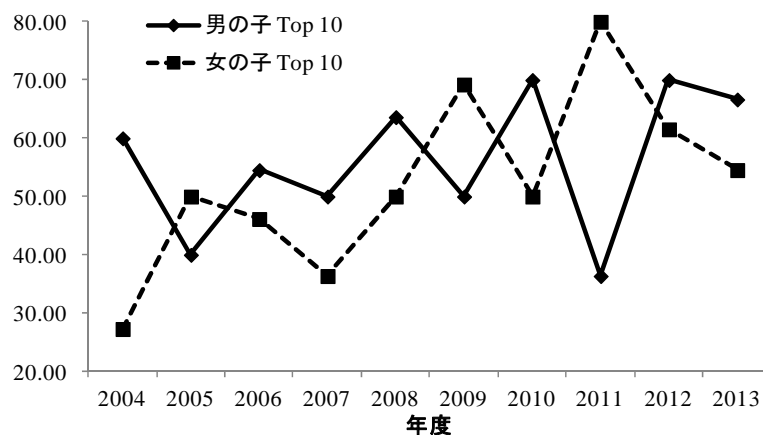


図2 人気のある漢字の組み合わせトップ10のうち、読みが複数あるものの割合の経時変化(%)

これらの結果から、人気のある漢字に対して一般的でない読みを与えることによって個性的な名前を与える傾向が増加していることが明らかとなった。例えば、「海」を「かい」や「うみ」ではなく「まりん」と読むような英語読みや、「心」を「こころ」ではなく、「ここ」や「こ」と読むような短縮読みなどの方法があるようである。

まとめ

一般的な名前を子どもに与える親の割合は減少し、より個性的な名前を与える傾向が増加していることが実証的に示された。この結果は、日本文化が個性をより重視する個人主義文化に徐々に変容していることを示唆している。

今後は、こうした個性的な名前を与えられることが、変容する社会の中でポジティブな帰結を生み出しているのかどうか検証する必要がある。

書誌情報

Ogihara, Y., Fujita, H., Tominaga, H., Ishigaki, S., Kashimoto, T., Takahashi, A., Toyohara, K., & Uchida, Y. (2015). Are common names becoming less common? The rise in uniqueness and individualism in Japan. *Frontiers in Psychology*, *6*: 1490. doi: 10.3389/fpsyg.2015.01490

本論文は、10月22日（木）の午前2時より、以下において掲載されました。オープンアクセスですので、どなたでもお読みいただけます。

<http://journal.frontiersin.org/article/10.3389/fpsyg.2015.01490/abstract>